

工藤篤子メールマガジン31号

2003.07.04

●ドイツ、スイス、オランダの旅

お元気でいらっしゃいますか？

ヨーロッパ賛美ツアーから元気に戻りました！旅行は最初から最後まで大きく祝され、たくさんの皆さんにお祈りいただいていることを強く感じました。ありがとうございました！



スイスを発つ朝の雷雨以外は、毎日素晴らしいお天気でした。最高齢81歳のお二人のご婦人が何と一番お元気で、とにかくお二人の食欲には、大食いの私も顔負けいたしました。

私たちは、朝のデボーションで共に賛美し、みことばを聴き、祈りをもって一日をスタートしました。5人のクリスチャンと3人のノン・クリスチャン、合わせて8人のメンバーでしたが、ノン・クリスチャンの皆さんもとても喜んで共に歌っていただきました。そして5人の信仰者が、機会ある度に3人の方々に主を証しするチャンスが与えられた旅となりました。

そして、ひとりには心のうちに洗礼の準備を始め、もうひとりには主に心を開きはじめたそうです。また「私は仏教があるからいい。」とおっしゃっていたもう一人の方も、日本へ戻られてから、「一体どうしたらクリスチャンになれるの？」と聞いておられたとか・・・ また主は、観光するいたる所で、当地で出会う方々に伝道するチャンスも与えてくださいました。このように、私たちが主に祈り願った通り、素晴らしい「ヨーロッパ種まき旅行」とさせてくださいました。

旅行の行程は次の通りです。

ドイツ

1. **ハイデルベルク** (ドイツでもっとも古い大学のある、中世の面影を残した町、ネッカー川から見のお城と町並みはなんとも言えませんでした。)

2. **ローテンブルグ** (やはり中世の美しさを残した宝石箱のような町、本当に美しかったです！ここで、メンバーのひとりには感動に涙されました。)

3. **ビュルツブルク** (世界遺産に登録されている絢爛豪華なレジデンスを観光。大主教が賄賂で建てた宮殿、と聞いて憤慨したりもしました。)

4. **ニュルンベルク** (ワグナーのオペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」の舞台となった美しい町)

5. **ミュンヘン** (ニンフェンブルク城、訳して『妖精の城』は圧巻でした。ずらりと飾られた美人画には驚きました。当時のドイツの美人とは、みな日本人のような丸顔だったのです。)

6. **ホーエンシュヴァンガウ** (ドイツで最も美しいノイシュヴァンシュタイン城とヴィース教会は古城街道のハイライトでした。)

スイス

7. **マイエンフェルト**（ハイジの生まれ故郷、スイスの絵のような山と湖の景色にうっとり、心が洗われるようでした。）

8. **ユングフラウヨッホ**（青空にくっきりと浮かぶ雪山、そして登山電車で上るとも目の前に広がる氷河は素晴らしいパノラマでした。）

オランダ

9. **アムステルダム日本語教会での賛美とお交わり**

最終日の夜、私は、アムステルダム日本語教会にて賛美と証しをさせていただきました。この日は、アムステルダム以外にも、伴奏してくださったペイトン朝子さん、満里子さんほか数名の方がアイントーフェンから、またデン・ハーグなどからも駆けつけてくださいました。そして、コンサートの後は、オランダ日本語教会の皆さんが作ってくださったおすしやケーキなどをいただきながらの楽しいお交わりに、あっという間に時間が過ぎてしまいました。たくさんの準備をしてくださったアムステルダム日本語教会の皆様には心から感謝申し上げます！

10. **その後・・・**

翌日、ツアーの一行は、アムステルダムの運河巡りをした後、お昼の飛行機で日本への帰路に着きました。

私はオランダに残り、29日にアイントフェーフェンで行われたオランダ日本語合同礼拝に出席、特別賛美をさせていただきました。この日、私が3月にこちらでコンサートをさせていただいた折にお会いした、すみれさんと和子さんが洗礼を受けられたからです。礼拝には合わせて50人以上の方が参加されました。そのうち、10名ほどのノンクリスチャンの方が参加されましたが、御霊に溢れた礼拝に、皆さんとても感動されていたご様子でした。

●**印象に残ったこと（ヴィース教会）**

ドイツでは、たくさんのゴシック、バロック、ロココ様式の教会やお城、宮殿を見て回りました。特にバロック、ロココ様式のきらびやかさの背景には、神から離れた人々の退廃があり、見ていてうんざりさせられるものが多いのですが、バッハの音楽が、バロック様式の中にも信仰と調和が見事に表されているように、シュヴァンガウ近郊にあるヴィース教会のロココ様式の調和のとれた美しさには感動しました。

この教会は、1. 福音、2. 光、3. 音楽、4. 建築の4つが見事に調和するように建てられたのだそうです。壁と天井のフレスコ画には福音が語られ、教会の中にひとつも影ができないように光が差し込むようにと窓がつけられ、背後には主を賛美するための最高のオルガン、そして、それを包括する建物と建築様式は実に調和が取れています。まさしく、これは私たちの信仰の生き方を示しているのではないのでしょうか。私たちは、1. 神の福音を宣べ伝え、2. 主の栄光を反映させ、3. 神をほめたたえ、4. それらを私たちの体と心をもって表わしているのですから。そしてそれらすべてがまっとうされるとき、私たちは調和が取れて真に美しい者となるのではないかと思います。

●お祈りください

1. 7月9日～19日、スペインでの声楽セミナーに参加します。よき学びの時となりますよう、また、あちらでも、主が種まきのチャンスを与えてくださいますようお祈りください。

2. オランダで二年間熱い思いで牧会をされたパーク先生が、この7月で任期を終え、アメリカへ戻られます。オランダでは後任牧師招聘が今の緊急な祈禱課題です。一日も早くふさわしい方が与えられますようにお祈りください。

ヨーロッパツアーは、お天気が最高の時期でしたが、ハンブルクに戻ってからは、厚い雲が一日に何度もやってきてはシャワーのような雨を降らせています。私たちのツアーをどんなにか主が祝福してくださったか、今ひしひしと感じています。

今度はスペインから戻りましたら、またご報告させていただきますね。 主の平安と喜びが皆様とともにありますように。

工藤篤子